

## 第9回 防府市庁舎建設基本構想・基本計画検討委員会 会議録要旨

開催日時 平成29年3月13日（月） 午後6時から午後7時20分まで

開催場所 防府市役所1号館3階南北会議室

出席者 【委員】 鳩委員（委員長）、青木委員、大村委員、岡本委員、田内委員、  
広石委員、藤本委員、山野委員、脇委員、田中委員、長峯委員、水田委員、  
河島委員

欠席者 古田委員（副委員長）、福田委員、喜多村委員、

【事務局】 藤津総務部長、熊野総務部次長、石丸総務部次長兼庁舎建設  
室長、竹末庁舎建設室次長、本間庁舎建設室次長補佐兼建設推進係長、  
沼田庁舎建設室建設推進係主任、野間都市計画課副主幹

【基本構想・基本計画策定支援業務受注者】(株)日本設計 唐崎主管、高橋氏

概要（発言要旨の文章は簡略化している。）

### 1 開 会

#### ○市長あいさつ

市長

平成26年に防府市庁舎建設懇話会からスタートし、平成27年8月からは当委員会で新庁舎建設の検討についてご協議いただいております。各種団体の代表、また、公募委員として参画し審議に加わっていただいた皆様には、本当に長い間、市政の抱える大きな課題について集中的にご審議賜りましたご労苦に、心より感謝申し上げます。

市では、この4月から各自治会に出向いて、この構想・計画の方針について、市民の皆様のご理解を得るべく、丁寧にご説明していきたいと思っております。

委員の皆様には、引き続き防府市政各般にわたりお力添えをお願い申し上げます。私からの御礼のあいさつに代えさせていただきます。

（市長退席）

#### ○前回のまとめ

委員長から前回の協議内容についてまとめ。

### 2 議 事

#### (1) 防府市庁舎建設基本構想・基本計画(案)について

- ・ 「防府市庁舎建設基本構想・基本計画（案）」により説明。

事務局

パブリックコメントについて、提出者数は50名、このほかに要件に該当しないため回答をしない取扱いとなるものが7名あり。

回答については、通常であれば、それぞれの意見を細かく分けて意見数をカウントするが、今回は意見を細かく分けると意味がわからなくなってしまうものが多いということもあり、基本的に一人の意見は一つの意見として扱っている。ただし、No.29の意見のように明確に区分できるものは分割してカウントしており、意見等の数は72件となっている。

また、いままでの候補地選定や検討委員会の進め方についての意見も多くあったので、資料1の別添3に市の基本的な考え方についての説明をまとめている。

## 【質疑・意見等】

委員

市はこの計画案をもってパブリックコメントを実施し、50人という驚異的な数の意見が寄せられた。私なりに整理してみたところ、候補地についての意見が47人、うち駅北を支持するものは3人で約6%、どちらとも判断できないものが10人で約21%、現庁舎敷地を望むものが34人で約72%。議員有志によるアンケート結果の市民の7割が現庁舎敷地を望むという数値に奇しくも近似しているという結果が出ている。多くがこの計画の根幹をなす庁舎の位置についての反対意見で、この計画をダメだと言われているような気がする。このことは厳粛に受け止めなければならないと思う。

また、2月14日の庁舎建設調査特別委員会を傍聴したが、議員の質問に対して庁舎建設室長は時折、「庁舎建設基本構想・基本計画検討委員会（以下、「委員会」という。）が決めた計画なので」という答弁をしていた。口にはしていないが、私には委員会が決めたことなので変更できない、見直しできないと言っているように取れ、委員会の人たちに大変申し訳ないことをしているのではないかという気がした。

3月議会の一般質問でも3人の議員から質問があり、うち2人の質問についても傍聴した。現計画と現庁舎敷地をそれぞれ策定し、二本の計画案で市民の意見を聞くべきではないかという要望のような質問をされたが、執行部は、委員会が決めたことだから、信頼関係を尊重するとはっきり答弁していた。

私はこの答弁を聞いて愕然とした。本当にこの計画案が良いのであれば、質問に対してどんどん討論すればいいと思うが、委員会が決めたことだからと言って逃げ道に使われているのではないか。私達も重たい決断をしたので、もっとしっかりしないといけないと反省した。

今回のパブリックコメントを受け、それを尊重するもこのままの案でいくというのも一つの考え方。また、私の考えでもあるが、現庁舎敷地を建設地としてもう一つ基本構想・基本計画案を作り、現案と併せて市民の意見を聞くという考え方もあるのではないか。あるいは他の考え方もあるかと思うが、委員一人ひとりに思いを聞いて、採決で一つに絞ってはどうかと思うので、委員長の判断をお願いしたい。

委員長

資料1の別添3にあるように、懇話会の期間を合わせれば足掛け3年議論してきて、その都度意思決定について合意を語りながら進めており、場所を選定した時にも、一人ひとり意見を述べたうえで駅北公有地エリアで合意したと私は理解している。

確かに反対意見があったことは議事録に残し、そのことは尊重していくということを確認して進めてきた。パブリックコメントに50人の意見が出たことを踏まえ、今この時期に、また一年ほど前の考え方を各委員にどうかと聞くのはいかがかと思う。それを聞いても良いが、まず我々が行ってきた3年間の議論を皆で共有し、尊重していくべきではないか。

この件については、本当に苦労して議論してきたと私は認識している。

委員

今、防府のまちは寂れつつあり、多額の金をかけて建設する市役所はまちの発展、活性化に資するようものでなくてはいけない。それが一つ。

もう一つは、市役所は単に事務手続きをするだけの所ではなく、用事がなくても行ける、市民がくつろぐ場所とか、交流拠点とかそういったものであるべきではないか。3年間様々な議論が進められてきた。現庁舎敷地は資金面で見れば確かに安いかもしれないが、今の場所で建替えても、単に建物が変わったというだけになる。

また、市役所は500～600人の職員がいて、まちの中心部にある事業所としては最大の規模である。駅北公有地エリアに庁舎を建てて、職員駐車場を作らずに付近の駐車場を使えば人の動きが出てくる。まちの発展には回遊というか、人の動きが必要だと思う。それでまちが発展していくのではないか。たとえば呉市では、1階のホールに市民がくつろげるエリアがあり、上層階にはレストランなど、誰でも利用できるエリアがあった。東広島市にも市民がくつろぐ場があった。

防府市には議会の立派な建物があるが、先の両市とも議会はコンパクトなものになっている。市役所のあり方を市民ファーストという視点に立って考えれば、お金をかけるならやはりまちの発展に資するもので、建物そのものを市民が自由に使える交流の場に、というような意見が交わされてきて、その集約が今回の計画案になっている。確かにパブリックコメントは反対意見が多いが、これは説明不足からであると思う。防府市を発展させるにはどうすれば良いかということをも市民一人ひとりが真剣に考えていかなくてはいけないのではないかと考えている。

委員

今の意見に尽きると思うが、行政は継続なりということで、南北を山陽本線で分断されていたまちを鉄道高架事業で風通しを良くして、駅を中心としたまちづくりをしていこうというのが、今まで行政と議会が一体となって取り組んできた経緯である。庁舎の建替えを一つのチャンスとして、これに継続して駅北に庁舎を移転することが、駅北を中心とした防府市の更なる活性化、発展につながっていくと思う。

現庁舎敷地には建てやすいかもしれないが、そうすると駅北には人通りがなくなり、また鉄道高架以前の南と北に分断されていくおそれがあるのではないかと思う。駅を中心として鉄道高架を行い、まちづくりに取り組んできた、そのまちづくりの最後のチャンスが庁舎の建設だと思う。困難な問題もあるかと思うが、ぜひ、行政が情熱を傾けて市民に説明し、駅を中心としたまちづくりを進めていくべきだと考える。

委員

一人ひとりに聞いていただけないか。

委員長

駅北を選定した時に、一人ずつ発言いただいたのでそれをやり返すのは・・・

委員

パブリックコメントを受けて考えは変わると思う。これだけ反対のコメントが出ている。こんなパブリックコメントを見たのは初めてで、市民が怒っているのではないか。

委員長

もう一度一人ずつ意見を、ということについて、皆さんいかがか。

委員

パブリックコメントが出たから云々ということではなく、委員会としてはそれを踏まえて議論し尽くしていると理解している。余程の反対がない限り、これまで通りで良いのではないかと思う。

委員長

資料の別添3に詳細が書いてあるとおりに、皆さん3年間きつい判断をされながら議論してきたと思う。我々の総意として計画案を提示しようとしているので、これについてまた一人ずつ考えを確認するようなことはしなくてもよいのではないかと。委員長としてもそう考えているがいかがか。

- 委員 パブリックコメントでこんな結果が出なければ何も言うつもりはなかった。皆で決めたことなので。しかしこれだけの意見が出て、しかも議会の答弁ではこの委員会が逃げ道になっている。私はこの委員会が市民不在の独裁的な委員会と思われたくない。以前私が反対意見を述べた際に採決をと言えばよかったのだろうが、今さら採決しても仕方ないかも知れないが、私はパブリックコメントを受けてどうあるべきか、いろんな意見があるかと思う。
- 委員 委員は各種団体の代表として出られているので、その団体の意見を踏襲した意見になるべきでないかと思うが、今の委員の意見というのは個人的な意見のように聞こえる。
- 委員 前任者も、もし庁舎がまちづくりに役割を果たすのであれば、現庁舎の周りがすでに発展しているのではないかという意見であった。庁舎が駅北へ行っても発展するのは難しい、むしろ防災拠点として現庁舎敷地が良いと。私は市民の意見を大事にしたい。個人の意見ではない。
- 委員 この委員会は最初からいろいろな意見がある中で議論を尽くしてきたので、パブリックコメントはパブリックコメントとしてそれでよいのでは。状況を踏まえた上でこういうことが望ましいという結論を出してきたので、我々はそれに向かっていくべきだと思う。
- 委員 先ほどの話に出ていた委員の前任者は、防災拠点としての位置付けと、経済合理性、これらを中心にした意見だったと思う。  
パブリックコメントを通じて、事務局は情報発信の不足を感じたということであったが、今後、地域や市民に向けた情報発信をどのように行っていくか具体的に説明を。
- 事務局 議会の答弁などでこの委員会を逃げ道に使ったつもりは全くないが、そういう受け取られ方をされたことについては申し訳なく思う。今後しっかりとした対応をしていきたい。  
パブリックコメントは本来多数決ではなく、意見の多様性について尊重するという考えのもとに行っている。建設場所がどこかというのは、この計画の根本、根幹に関わる大きな要素であるので、これがだめだということになると計画そのものが違うということになる。意見はたくさん出たが、そこは揺るがすことは出来ないというのはご理解いただきたい。  
また、議会からも現庁舎敷地での案も作ってはどうかという意見があるが、そうすると今やっていることは何なのかということになるので、それはできない。  
パブリックコメントで様々な意見をいただき、その内容に誤解があるようなことについては回答において訂正しているが、意見中の主義主張に対して、こちらの主義主張で返すようなことはしていない。  
また、情報不足を感じたところでもあり、資料1の別添3でこれまでの進め方については丁寧に述べたつもりである。ただ、当初よりある一定の考え方を示したものの、つまり構想・計画案をもって市民に説明したいと考えていたので、情報提供という点では少し遅れたかもしれない。その遅れを取り戻す努力をしていきたいと考えており、4月から5月初旬頃まで、各地区に出向いて説明していきたいと思っている。

また、シンポジウムの資料ではまちづくりに重点が置かれていたところもあるため、説明の際には十分に資料を整え、建設場所に重点をおいた説明をしていきたいと思っている。

窓口に直接来られて、えらい剣幕で「おかしいんじゃないの」と言ってこられた市民の方もあったが、説明するとすぐご理解いただけたり、話がかみ合わないと思っていたら第一ボタンの掛け違いのようなことがあったりということもあった。

参画と協働という考え方のもとにこの委員会を設置していることや、パブリックコメントについても参画と協働の方法のひとつであるということなどをまず伝えていくことが必要だと痛切に感じているので、資料も調製してPRを行っていきたい。

委員長 皆さんにもう一度確認したいが、この構想・計画（案）についてこれで進めていってよろしいか。

委員 賛否をとってほしい。

委員長 それでは、賛否について挙手していただいてよろしいか。

委員 異議なし。

委員長 防府市庁舎建設基本構想・基本計画（案）について、このまま進めていってよいという方は挙手を。

委員 委員長を除き、賛成に11人挙手（反対1人）

委員長 （委員長を除く）委員12人のうち11人が賛成に挙手ということで、パブリックコメントについて他に意見がなければ、この基本構想・基本計画（案）で進めるということによろしいか。

委員 これから市民に説明していくのは大変であろうと思うが、遅れを取り戻すための戦略をきちんと練って、しっかりと構築された、理解いただける説明会を開いていただきたい。

委員長 それではこの構想・計画について、事務局で作業を進めていただきたい。

委員 私達も時間をかけて結果を一つにしているということも理解していただきたいので、今後議会等で説明をする際には、「この委員会で決めました。」というのではなく、議論を踏まえたうえで決定しているということを先に一言付け加えていただきたい。反対意見も含め様々な意見もあった中でこういう一つの意見となったということをつけ加えることで、誤解も防げるのではないか。

パブリックコメントを読んでいると、皆さんが納得するような意見もあると思うので、それを踏まえて今後説明会に臨んでほしい。

事務局 委員会で多くの時間をかけて議論してこられたということは説明していきたい。

我々もパブリックコメントを読み込むのに多くの時間をかけたが、計画には反映していないが欠落していた視点や、気づきなどもあった。また、市民が心配に思われている部分もわかったので、そういったところも踏まえて各地区を廻って説明したいと思う。

### (3) その他

- ・ 今後、3月17日に議会の全員協議会でパブリックコメントについて説明した後、庁内で諮ったうえで基本構想・基本計画に意見等を反映したものを各委員に送付する予定。

委員長

この委員会は苦しい議論、もしくは苦しい決断をしながら進めていかねばならない、または合意を諮って前に進まねばならないという委員会であったと認識しており、その中でこの基本構想・基本計画の案が我々の考え方として示し得たのは、皆様の協力の賜物であると感じている。

私の研究室で全国20事例の庁舎の建替えについて調べているが、そのうち55%が場所を移している。なぜこういうことが起こっているかという、地方都市の場合、昭和20年代に市制を敷いた後に建てた庁舎が、そろそろ耐用年数、防府の庁舎と同じような状況にある。地方都市はどこも疲弊しつつあるが、きわめて限られた予算の中で庁舎を建替えるといったときに、先ほど委員が言われたように、大きなお金を使うということで、これを一つの契機、もしくは起爆剤として、その都市の将来を考えましょうという流れが全国的にもあるように感じる。

私は他の委員会や講演等で、「地方都市では行政が最大の投資家ではないか。」と言っている。なかなか民間がまちづくりにお金を出してくれないような時代になってきているので、まず効果的な一手をいかに打つかということが問われ、そこの判断を慎重にしなければならぬと考えている。防府の庁舎もそういった側面が少しはあるかと思う。

まちづくりの分野で「ツボと血流」、いいツボを押していい血流の循環を、といったことが言われている。庁舎が一つのいいツボを押したということになって、いろんな血流、経済であったり、コミュニティであったり、いろいろな血流が防府市の中にきめ細かく、毛細血管のように広がっていくような、そういった一手になっていくことを期待したいと思っている。

本当に長い間ご協力いただき、ありがとうございました。

事務局

鳩委員長をはじめ、委員会の皆様方ありがとうございました。

皆様からご意見をいただきながら、ようやく基本構想・基本計画が完成するところまでこぎつけることができました。委員の皆様方は市の他の委員会や審議会委員になっておられる方も多いと思いますが、今回の検討委員会ほど責任の重い、大変難しい判断をされたものはなかったのではないかと感じており、皆様のご労苦に感謝申し上げます。

これからは執行部が4月に実施を予定している、「新庁舎建設に関する検討会」をはじめとして、「なぜ駅北なのか?」、「どんな庁舎を建てるのか?」、「予算は?」などの市民からの様々な意見に計画に沿って丁寧にお答えし、その責任を果たして参りたいと考えております。

皆様方には新庁舎建設だけでなく、市の行政各般について今後ともご協力の程、よろしくお願い申し上げます、ごあいさつとさせていただきます。